

(小論文 1 日目)

問題用紙

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

アンパンマンはスーパーマンです。ヒーローだから、いつも悪に向かって戦わなくちゃならない。だけれどアンパンマンには弱点がたくさんあります。もともと食べ物だから汚いものが苦手で「かびるんるん」には弱いですし、顔が雪や水に少しぬれてもすぐに「力が出ない」と情けなくダウンしてしまいます。史上最弱のスーパーマンかもしれません。得意技のアンパンチだって、敵のばいきんまんを殺すことはありません。ばいきんまんは死ぬのではなくて、自分の家に帰ってしまうだけです。アンパンマンは、ばいきんまんが死なないように殴っている。アンパンチは、相手をボカボカに殴るのも悪いので一発でボカーンとやってしまおう、アンパンだからアンパンチと簡単に作っちゃった技です。

ばいきんまんだってやたらにふんづけたり「最後だ、とどめだ!」とかやっているけど、アンパンマンが死ぬことはない。あれもわざと外してやってるんじゃないかと思います。本当にあんなのでゴンとやれば死んでしまいます。でもアンパンマンはへこむ程度で終わるんだよね。本当にはやられないように手加減しているのじゃないかな。そういうことで、アンパンマンとばいきんまんは戦ってはいるけれど、ある部分は仲良しがじゃれ合っているというところもある。ばいきんまんは、やられても次の週になると平気な顔で出てきます。

現実の世界でもばい菌にやられると病気になってしまいますので、排除はしなくちゃいけないのだけど、相手を殺してしまう必要はないということなんだよね。

これはどういうことかという、人間の最大の敵はばい菌なんです。みなさんのおなかの中、口の中にはばい菌がたくさんいる。例えばインフルエンザにかからないように予防注射をしますね。抗生物質が発見されると、インフルエンザは治るようになります。でも抗生物質を使うと、今度は抗体を持った新型のばい菌が出てきて、それまでの薬がきかなくなってしまう。そうするとこちらはまた対抗する薬を作っていく。それに対抗して新型菌が出てくる。新型には今までの注射はきかなくて……と、この戦いは永遠に続いていくのです。アンパンマン対ばいきんまんの戦いと同じです。

それから、酵母菌のようにパンを作るのに必要な菌もあるし、納豆菌、乳酸菌、有用善玉菌もたくさんある。ばい菌はいろいろです。

残念ながらそれが健康な社会なんですね。ばい菌が絶滅すると、人間も絶滅する。絶えず両方が拮抗して戦っているというのが健康なんです。何人かは負けて死んでいくけれど、それも仕方がないんだよね、たとえ人間が善人ばかりだとしても、増えすぎちゃダメなんです。気の毒だけどそうなんです。誰一人死なないとなると、バランスが崩れて大変なことになる。

必要悪という言葉がありますね。つまり光がなければ影もないし、影がなければ光もない。

絵を描く時にも光を描きたければ影を描けなくちゃいけない。新印象派のフランス画家、スーラはそれが非常にうまい作家です。デッサンを見るとよく分かりますが、影の部分が非常にうまいんですね。だから光を描ける。

とにかく全部善良というわけにはいかなくて、必ず敵対するものがある。そのバランスが良くとれている時が健康な社会です。

やなせたかし 『新装版 わたしが正義について語るなら』より引用

問い

筆者が主張する「健康な社会」についてどう考えますか。自身の経験をふまえて 600 字以内で説明してください。